

KSKP えのき NEWSLETTER

地域で当たり前暮らしのために

編集人：社会福祉法人えのき会
理事長：古川 末子
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8
075-605-0303 (TEL)
075-605-0310 (FAX)
e-mail: info@enokikai.or.jp
http://enokikai.or.jp

=障害者がいる事が街の当たり前の風景に=

昨年は、熊本をはじめ、各地で大きな地震や大型台風、大雨による洪水の被害など、自然の威力を見せつけられた年でした。
一方、世界に目を向けても、未だ戦火が絶えず、むしろ広がりを見せています。1月就任のアメリカ大統領トランプ氏にも、さまざまな不安の声があがっています。
国内でも、安倍政権が与党議員の数の力で、立憲主義や議会制民主主義を踏みしめる政治が続いています。政権に追随する大企業や、批判精神を忘れたメディアが取り巻いて、国の先行きを不透明にしています。
障害のある人や親たちを最も震撼させた、相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で起きた「障害のある人は生きるに値しない命」として、19名の命を奪い27名に重軽傷を負わ

せた事件から、約半年が経ちました。他国で、これだけ大きな事件が起これば、ただちに国のトップが現場に駆けつけ、国民に対して強いメッセージを発信するのが常ですが、安倍首相は、党役員会で「心からご冥福とお見舞いを」という主旨の発言をした後は、政府としての公式な発信はありませんでした。
プライバシー保護や遺族側からの要望というところで、メディアが横並び的に、被害者の名前も公表しなかった事にも、障害者の親として、違和感を覚えます。
変な気遣いが、返って差別を浮かびあがらせる結果となり、政治からも、メディアからも、周囲の人からも幾重にも否定された人たちがいることに、どれ程の人が心を痛めてくれたでしょうか。
30年前、無認可団体「榎の会」の活動を始めた頃に、北欧から「ノーマライゼーション」という理念が、遅ればせながら届

きました。1950年頃、デンマークの知的障害者の親の会が、大型入所施設で暮らすわが子の様子を見て、疑問に思ったことが運動のきっかけでした。
障害があっても、他の人たちと同じような当たり前の1日、当たり前の1週間、当たり前の1カ月の暮らしがあり、1年間の当たり前のリズム、当たり前の経験、当たり前の要求の尊重、当たり前の生活水準、これらを実現しなければならぬと位置づけたものでした。
言葉の新鮮さに驚くと共に、根底にある考え方に、50年以上前も今も、変わらない親の心を感じ取れました。
北欧から広まった「ノーマライゼーション」の理念に後押しされる形で、国内外の法整備が進み、「地域で当たり前暮らし」ということを目指した「榎の会」の活動も、現在は、社会福祉法人の事業として継続されています。
長い間、障害のある人や社会的弱者と言われる人たちを保護という名で隔離し、地域社会と分断してきた歴史から、「誰もが地域で当たり前の暮らし」に向けて、スピードを持って進めていかなければならないと思えます。
お互いの顔が見えるところからはじまり、どれだけ豊かなつながりを作っていけるかが、今、問われています。
「もっと地域へ！」
障害のある人もない人も、高齢者も若者も、乳幼児連れの親子も、みんな当たり前存在している事のために……

理事長 古川末子

謹んで新春のお慶びを申し上げます

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年も、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉法人えのき会

理事長 古川末子
役員員一同



1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円
1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円

社会福祉法人の制度改革が施行され、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組を実施する責務等が明確化された。それに伴い、各法人では定款の変更手続中である。
えのき会としては、すでに評議員会を設置していたが、今回の改正により、法人の設立者の趣旨を反映させるため、利用者ご家族が評議員の半数をしめる事を明記した。障害のある子どもを抱えたお母様達が核となり、重い障害があっても生まれ育った地域で安心して暮らせる社会の実現に向け法人は設立された。ご本人・ご家族の思いに寄り添い、お一人お一人大切に必要サービスを提供する。正にえのき会の基本姿勢でもある。
時代は変われども、新たな生命は誕生する。そんなご家族の不安を和らげ、安心して将来に希望が持てるそんな社会の実現に寄与したいとの思いは、法人設立者たちの胸のなかに今もなおある。
生命には限界がある。誰も老いていく。ご家族だけの介護で支えられる時でもない。安心できる地域コミュニティの形成には避けられない課題ではないだろうか。
えのき会の立地する地域に執着し、誰もが安心して生活支援サービスを提供していくこと。そのことが社会福祉法人の使命でもあり、法人理念の具現化でもある。
今回の制度改革を契機に、設立者達の声を継承し、地域とともに成長し、支え合える法人となりえるよう今年一年歩んでいきたい。社会福祉法人として、正に真価が問われる時代であってほしい。

常務理事 村上 高久

えのき会をご支援下さい!

いつも(福)えのき会にご支援頂きありがとうございます。皆様からの心からのご支援とご協力に支えて頂き、こうして事業を行なっています。心より感謝申し上げます。

昨年4月に開所しました放課後等デイサービス「そらまめ」も、この4月で1年を迎えます。今日も楽しい1日であってほしいと送り出す親御さんの思いと、障害のため自らの思いをうまく人に伝えられない利用者さんにも丁寧に応えて行ける事業所でありたいと、職員一同、日々頑張っているところです。

デイサービス(生活介護事業)を利用される方も年々増えてきており、「榎の家」、「さくらの家」でも、プログラムによっては、部屋が手狭になる事も多くなり、スペースの確保にも工夫が必要となってきました。

利用される方より良い環境を考えていくと共に、職員のための休憩スペースなど働く人の環境にも、心を配っていかなくてはなりません。改善に向けて努力していきたいと考えております。

今年も、引き続きまして、えのき会へのご支援並びにご協力頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

- ☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。
- ☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。

社会福祉法人えのき会
1口 1000円 となっています。1口以上でお願い致します。
00920-6-106339



編集後記

わたしを束ねないで
あせいのこの花のように
白い葱のように
束ねないでください
わたしは稲穂
(中略)
新川和江さん『わたしを束ねないで』の詩に出会ったのは、随分と昔の事です。
この詩に出会った頃、障害のある息子の世話に、昼夜なく奔走していた日々を思い出します。母子で通った通園施設、病院、リハビリ施設、家に帰れば、山のような家事……
1日が、目まぐるしく過ぎていきました。この詩に出会い、自分の中で何か、ほめていくものがありました。
あれからどれほどの歳月が経ったでしょう。
少しは、自らの生き方ができるようになったのか、ふと、問うてみたくなりました。(f)

○ 発行人・関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



○ 編集人：(福)えのき会 理事長 古川末子
〒612-8002
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

「えのき」に通って考えたこと

小児科医師 橋本加津代

ボランティアで月2回程、橋本先生が「えのきの家」と「さくらの家」に来て、利用者の様子を診て下さっています。そこで気付かれたことを書いて頂きました。

えのきに入ると、いつもスタッフの笑顔が溢れ、明るい雰囲気があります。職員同士のつながりはとてもいい感じ、例えば席を離れるときは必ず声掛けをして「〇〇さんをお願いしま〜す」と言っていて、職員とえのきに来ていてる人たちとのかわりには千差万別、いろいろです。基本の仕事(ルーチンワーク)はおさえた上で、職員が多様な個性豊かなかわりをされていて、「良い感じ」、素晴らしいと思えました。全員が一律の対応なら口ポットにお世話してもらったらいからです。当然のことではあります、人と人との関係ですから相性の良い人も良くない人もあるでしょう。おしゃべりな人も、寡黙な人もおられます、が共通しているのは全員が真摯にお仕事に向き合っておられることです。

えのきに通っている人達の性格、運動能力、感性、できることできないことも本当に様々です。「全体」への対応とは別にそれぞれの「個」への対応も大切です。ルーチンワークは同じでも、それ以上は個々の職員の個性豊かな特徴のある関わり方があり楽しい雰囲気を作ってお

られます。少し気になることは、えのきを利用されている方に対して、身体的な世話や精神的なケアは必要ですが、人格の世話はいらぬと思えます。具体的には、彼らが意思決定に参加できるようにする、相手に話しかけ、尋ねてみて確認する、彼らが本気だと思っているのか、想像力を働かせてみるなどです。

職員の方々は、通っておられる方の細かなことまで特徴をよくつかんでおられますし心強いことです。時には「わかたつもり」でいても、実は本人の希望と違つこともあるのではないのでしょうか、少しづつイエスカノーカを確認できるようにになればいいなと考えています。基本は、私たちの言っていることを「彼らはほとんどのことを理解している」と思っ

て対応すればいいと思います。というのも、最近重度と思われる自閉症の人たちが(自閉性が強い人と考えたらよいと思えますが)本を出版し自身の思いについて書いています。おかげで今まで予想されていた以上に、彼らは理解力と感性もつておられることを知る事ができました。他にもレットの人も本を出版し発信しています。これ



からはもつともつと周囲の人の理解が深まっていくことでしょう。「彼らはほとんどのことを理解している」と思っ

て対応することが大切なように思いました。えのきに通つ中で、私が課題と思われることを挙げてみます。正解はまだないのですが、「課題と認識する」ことで仕事に取り組めば、糸口が見つかるのではないかと思います。

1. えのきに通い生活している彼ら自身の思いが周囲の人に伝わるようにするためにどうすればよいか考えることが必要だと思えます。受け止める側の工夫も大きいといえるでしょう
2. 素晴らしい対応をしておられる職員の方がとても多いので、職員の人たちがお互い同志で学び合う場があったらいいなと思えます。過去、看護の仕事は「先輩から盗んで学べ」と言われていた時期がありました。いまケアの仕事にもそのような側面はありますが、これからは看護の仕事が学問的に体系付けられていったように、「専門職としてのケア学」がもつと体系付けられていくことでしょうか。その作業にえのきの職員の方たちにも是非参加していただきたいと思っています。
3. 毎日えのきに通う人たちはほぼ同じ、対応する職員も大体同じ、気をつけないと、馴れや情性に流されてしまう危険性をはらんでいます。しかし考えようによってはとても深い関係が構築され、彼らにとつてはもつと居心地の良い環境を作っています。
4. 医師としては、部長の「最後まで責任をもつて見ていく」という発言を聞いて

た時、将来老人になつたときのケアを見据えたいので今の関わり方が問われていると思いました。例えば、寝たがりの人は毎日少しでも座位の間を、座れる人は少しでも歩ける時間を長くする等々、使える筋肉は使っていけないと委縮し衰えていくでしょう。関節も動かしてないと固まってしまいます。成人病予防も真剣に考えないといけない課題だと思いました。

思いつくままに書いてきましたが、えのきに通っている人にも、生活している人にも、また働いている人にとつても「良い環境」とはなんだろうと考えています。答はまだありません。これからも引き続き多くの方たちに教えて頂きながら一緒に考えていきたいと思います。



浴衣着て夏祭り

さくらの家 夏祭り

ハロウィン集合!

榎の家便り

冬はイベント盛りだくさん

12月はクリスマス会や忘年会。1年を振り返るスライドショーをみて、しみじみ「あつという間やつたね」と盛り上がりました。年明けはダンボール羽子板を使っての風船パレーをして新年会を楽しみました。また、新成人2名も誕生しますよ。「オメデトー！」



さくらの家便り

ハロウィンやサンタも

さくらではイベントの季節行事は思いっきり楽しみました。10月はハロウィンで職員が仮装をし、12月はクリスマス会をしました。サンタさんも来てプレゼントをもらって皆喜んでおられました。来年はどんな行事になるのかお楽しみに…。



ハックベリー便り

皆、出かけるのが大〜好き!

2009年11月から始めた入居者全員での外出は、2月で77回目を迎えます。当初は、ディズニーランド旅行の練習のためでしたが、旅行後も毎月続けて来ました。記念すべき100回目は、どこへ行くか 今から楽しみです!



ベル便り

秋には1泊旅行も!

昨年4月から、月に1回全員そろっての外出を開始。春はお花見、夏は花火など、四季折々の外出を通じ、職員と入居者様、それぞれの「絆」がより深まったように感じています。今年は秋口に1泊旅行を予定しています。どんな旅行になるのか?今から期待に胸が膨らんでいます。



給食便り

今年もおいしい給食作りま〜す

昨年はスタッフの育休復帰などあり、変化の多い一年でした。今年は献立メニューの見直しなど、内容の充実を図り、おいしさと、安心安全をモットーに給食を提供できるよう、給食スタッフ一同頑張っていきたいと思えます!



そらまめ便り

初めての冬休みに

そらまめ初の冬休み。昼食づくりを2回して、チキン南蛮とカレーをみんなで作りしました。当初は、誘っても「しない!」と言ったり、野菜を持つのを嫌がっていた方たちも冬休みにはタルタルソースを作ってくれたり、野菜を切ったりと成長した姿を見せてくれました。



居室便り

京都の外出支援は大変!

シーズン中の外出支援は大混雑。紅葉やお花見の時期は京都は観光客も多く特に大変。有名スポットは、ひと・ひと・ひとの多さに驚かされます。そんな状況の中、京都以外を選択される事も多くあります。季節感を利用者さんに体感してもらえるように、工夫して支援を行っています!



ショートステイ便り

ご希望が多いショートです!

ショートステイの定員4名は、少人数な為、一人一人丁寧に関わることが出来ます。TVを観たり、トランプをしたり、それぞれが楽しい時間を過ごしておられます。全てのニーズに答えられないのが現状ですが、出来る限り対応できるように努力していきたいと思えます!



相談支援便り

気軽に相談ください!

障害のある方の生活の安定と、より良い生活に向けて、福祉サービスなどの情報提供や、支援者同士の連携を助ける仕事をしています。何かお困りごとがありましたら、気軽に相談ください!



なばなの里へ



新年初参り